

令和4年度 卒業式



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第42号 2023.3.20[月]発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>

晴天の空の下、令和4年度第74回高等学校卒業証書授与式が昭和学院メインアリーナで3月5日(日)に挙行された。卒業生333名と教職員に加え、本年度は新型コロナウイルス感染状況に鑑み、一家族2名までの出席となったが、4年ぶりに保護者にご参列いただくことができた。



▲総代の石坂美紀さん

今年度の卒業生は創立80周年を迎えた2020年「昭和学院イノベーション元年」に、新コースおよび新入試、新制服で入学してきた生徒たちである。新型コロナウイルスが猛威を振るう最中、ブルーの制服に身を包んだフロントランナーの生徒を迎えるのは5月下旬の「入学セレモニー」を待たなければならなかった。それから3年の歳月が流れた。その間、在校生として朝礼や先輩方の卒業式など式典を見る機会がないまま学校生活を過ごしてきた。そのため、生徒たちは緊張した面持ちで卒業式に臨んでいた。国歌および校歌の斉唱、呼名への返事など人前で声を出することができる卒業式も4年ぶりである。マスクなしで入場する生徒たちの凛とした姿から本校の卒業生としての矜持が感じられた。

山本理事長からは、学びが最も身に付く年齢が今であり、精一杯学び自分の目指す分野で成果を上げてほしい、昭和学院はいつでも帰って来られる場所であるとの祝辞をいただいた。大井校長からは、



▲答辞を述べた
大城ニルなみえさん

車いすテニスの第一人者で、先日、世界ランキング1位のまま現役を引退した国枝慎吾さんの功績を紹介し、自らのたゆまぬ努力で困難を乗り越えること、一人では生きていけないため周囲から多くの支援が必要であること、「昭和プライド」を持って今後の人生を切り拓いてほしいとの式



▲担任との記念写真

一人ひとりに卒業証書の授与と保護者から花束が贈呈された。生徒たちの表情からは、夢のように過ぎ去った3年間と4月から始まる新しい生活に思いを馳せる様子うかがえた。

当該学年は生徒の多様性と自主性を尊重し、他人への心遣いを忘れないことを重視してきた。これは、新コース元年の学年であり、様々な個性と背景を持った生徒たちが5つのコースにフロントランナーとして在籍しているからにほかならない。在学中には、対面の授業からオンラインの授業に切り替わることもあった。学校行事も中止や延期を余儀なくされ、規模を縮小して実施される場合がほとんどであった。このような厳しい環境の中で、工夫を凝らしながらピンチをチャンスに変えてきた生徒たちを称賛したい。

マスクで始まりマスクを手放せない3年間であり、ホームルームや座学の授業では生徒の素顔をほとんど見ることがなかった「コロナ世代」真っ只中の学年である。卒業生たちがマスクを外した後に、明るい未来が開けていくことを祈願したい。

辞をいただいた。在校生からの送辞を受け、答辞では大城ニルなみえさんから、コロナ禍で我慢を強いられる中で過ごしてきた学校生活の思い出、苦楽を共にした仲間の励ましがあったからこそ3年間を乗り越えられたこと、お世話になった先生方、そして何よりも家族への感謝の念が述べられた。

メインアリーナで式が終了した後、卒業生は自教室に戻り、学級担任から

一人ひとりに卒業証書の授与と保護者から花束が贈呈された。生徒たちの表情からは、夢のように過ぎ去った3年間と4月から始まる新しい生活に思いを馳せる様子うかがえた。

当該学年は生徒の多様性と自主性を尊重し、他人への心遣いを忘れないことを重視してきた。これは、新コース元年の学年であり、様々な個性と背景を持った生徒たちが5つのコースにフロントランナーとして在籍しているからにほかならない。在学中には、対面の授業からオンラインの授業に切り替わることもあった。学校行事も中止や延期を余儀なくされ、規模を縮小して実施される場合がほとんどであった。このような厳しい環境の中で、工夫を凝らしながらピンチをチャンスに変えてきた生徒たちを称賛したい。



▲最後のクラス写真(IAコース)



探究フェスティバル



▲生徒が作成したポスター

1月28日(土)に探究フェスティバル2023が実施された。1年間の探究活動を通じて、自身の考えや成長してきた成果を発揮する場である。生徒が運営する学校行事として、実行委員長を中心にスローガン「和衷協同」を掲げ、アカデミックな内容でも参加者全員が楽しめるように、学年を越えて交流できるイベントにしようと作り上げてきた。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、午前と午後に分けての開催となったが、自分の学年だけでなく他学年の取り組みも見学し、体験できる発表では参加もした。また、初めて保護者の方にも見学して頂いたことは、生徒たちにとって貴重な機会となった。

中学1年生 「自分を知る・他者を知る」をテーマに1年間での様々なワークを通じて考えてきた「私」の個性について3分間のスピーチを実施した。

中学2年生 「地球を知る」をテーマに本校がある市川市を中心に、キャリア教育のテーマでもある職業調べ・企業調べと合わせて、自分の興味のある企業や団体を調査した。電話やオンラインツールを用いてインタビューをしたり、実際に企業を訪問したりして調べたこと・考えたことをまとめて発表を行った。



▲中学生のプレゼンテーションの様子

中学3年生 高校進学を前に大学や将来、そしてその先の社会について考え、ポスターにまとめ掲示した。

高校1年生 焼肉店「肉屋の台所」とコラボレーションし、同店の売り上げアップの方法を生徒目線で探究した。その成果である改善点をプレゼンテーションや展示発表で提示した。

高校2年生 ディズニーランドを運営するオリエンタルランドとコラボレーションし、「人を喜ばせるためには？」をテーマに活動した。思い思いの方法で「来場者を喜ばせる」取り組みをした。



▲実際に菌の培養を行い手洗いの大切さを発表

高校3年生 自身のキャリアと繋げて調べ学習を行った。プレゼンテーションをはじめ様々な方法でその成果を発表した。

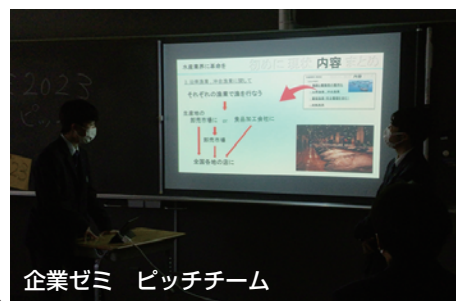


▲Minecraftを使って生活しやすい都市について発表の様子

学年を越えて活動していた**企業ゼミ**は、「ピッチチーム」と「商品販売チーム」に分かれて活動した。

ピッチチーム

1年間をかけて取り組んできた「身近な“不”の解消」をテーマに課題発見～仮説構築と検証～原因分析～対策立案を行って問題解決のための起業館を考案し、ピッチ(プレゼンテーション)を行った。



企業ゼミ ピッチチーム

▲発表の様子

商品販売チーム

1年間をかけて学んできたビジネスの知識やフレームワークを活かし、フェアトレードチョコレートや賞味期限は切れていないが廃棄されてしまう商品の販売を実施した。

有志を募って組織された実行委員会では、当日の運営や開催に向けたポスター制作、オープニングイベントの開催など、全体を盛り上げるために何をすべきかを話し合い、準備を進めてきた。参加者に少しでも楽しんでもらえるような工夫を凝らした企画を立案した。校内を隅々まで歩かないと完成しないクロスワードパズルや、フェアトレードクッキーの販売をするなど、準備から開催日当日と大いに活躍してくれた。

▲企業ゼミ 商品開発チーム フェアトレードチョコレート販売の様子

開催に向けたポスター制作、オープニングイベントの開催など、全体を盛り上げるために何をすべきかを話し合い、準備を進めてきた。参加者に少しでも楽しんでもらえるような工夫を凝らした企画を立案した。校内を隅々まで歩かないと完成しないクロスワードパズルや、フェアトレードクッキーの販売をするなど、準備から開催日当日と大いに活躍してくれた。

探究フェスティバル当日は、アカデミックな内容にもかかわらず、会場のあちこちで生徒たちの楽しそうな顔が溢れていたのが印象的であった。今回、様々な場面で生徒たちは答えのない問いに対して立ち向かっていく機会を得ることができた。コロナ禍によって行事開催が少ない彼らだが、この経験を活かして社会で活躍していけるよう羽ばたいてほしい。

▶生徒、保護者に配布した《しおり》の表紙



中3 オーストラリア語学研修



パディーとの集合写真



1班は2月17日(金)～25日(土)、2班は19日(日)～27日(月)の行程でオーストラリア語学研修を実施した。入学して初めての宿泊研修が

海外ということもあり、生徒たちはオリエンテーションの時から緊張した表情をしていた。楽しみだが、不安や心配の声も決して少なくなかった。出発当日は19時に羽田空港に集合した。見送りに来てくださった保護者の方々と別れ、緊張した表情で出発ゲートをくぐった。初めての飛行機、初めての海外という生徒も多く、離陸する際には声をあげ、恐怖を感じた生徒もいたようだ。シドニー空港に到着すると真夏の日差しで、日本とは真逆の季節であることを目の当たりにした。飛び交う言語は英語で、日本語表記も少なく、すぐに異国の地へやってきたことを実感したことだろう。今回は直行便ではなくシドニー空港から国内線に乗り継ぎ、1班はゴールドコーストへ、2班はブリスベンへと向かった。到着後お世話になる学校にバスで向かい、ホストファミリーと対面した。この旅の目標の1



授業風景

つは「自主自立」である。ここからは自分たちで乗り越えなければならない。1班は初日からホストファミリーと週末を過ごし、気持ちを通わせられたのではないだろうか。対照的に2班は翌日から

現地校での学校生活が始まり、ホストファミリーと過ごす週末は最後の2日間であった。1班と2班で休日を迎えるタイミングが異なったが、どちらも充実した日々を過ごせたと生徒たちの日記から見て取れた。この研修を実施するにあたり、「全員が無事に帰国できるか」ということは大きな心配要素であった。実際に研修が始まると、これまでの3年間で見られなかった生徒の姿を多く見ることができた。この学年は入学式から予定通りに学校生活を送ることができず、3年間マスクをつけたまま過ごしてきた。オーストラリアではマスクをつけている人はほとんどいない。初め



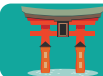
Morning Tea time

は生徒たちもマスクを外すことに躊躇してしたが、1班2班が唯一合流したドリームワールドでは、マスクを外して楽しそうに食事や会話をする全員の姿を見ることができた。これだけでも今回の研修を実施した意味があると強く感じた。それ以外でも生徒たちは日本とオーストラリアの違いを多く感じ、様々なことを学んだはずだ。最終日には涙を流しながらファミリーとの別れを惜しむ生徒もいた。そして全員が予定通りに帰国することもできた。

中学校生活を終え、高校進学後は今回学んだことを活かして、日本のことをより深く学びながら世界に目を向けられるようになってほしい。そして、より広い視野をもった人間として成長し、社会で活躍することを期待している。



▲ランチタイム



高2 広島・関西方面修学旅行



2月21日(火)～24日(金)、22日(水)～25日(土)の2班に分かれて、3泊4日の行程で高校2年生のTA・AA・GAコースは修学旅行を実施した。

現在の高校2年生は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中学3年次から軒並み行事の中止・縮小を余儀なくされたことにより、ここ数年、宿泊行事を経験していない生徒たちであった。そのため今回の修学旅行を特に楽しみにし、当日を待ちわびる様子が伝わってきていた。

今回、修学旅行の行き先として、広島・京都・大阪の3都市を訪れることとした。この3都市を選んだ理由としては、原爆被爆都市での平和学習を通して、平和と命の尊さを理解してもらうとともに、日本の歴史や伝統文化に触れながら体験することで学びを深めてもらいたい思いからである。

2学期中頃より発足した修学旅行委員会の生徒が中心になり、スローガンの決定や事前学習の計画などを進めてくれた。スローガンは修学旅行の目的をもとに「広島で学び、京都で感じ、大阪で楽しもう！」に決まった。



▲京都での班別研修

1日目の広島では、原爆ドームや平和記念資料館を訪問した。その際にピースボランティアの方が各クラスに付いてくださり、戦時下での辛い生活や戦争の悲惨さ、大切な人を失う悲しみなど、平和な世の中は当たり前ではなかつ



▲平和記念公園での献花

たことを教えていただいた。そして戦時下でも夢や目標を持ち、叶えようとしていたことなど、心に響くお話を聞くことができた。生徒たちにとって、日々の生活のありがたさを学ぶことができた1日となった。

2日目の京都は、日本の伝統芸能を体験する日と位置づけ、陶器の絵付けや友禅染、能楽を体験した。能について知らない、見たことのない生徒が大半であったが、分かりやすい説明のあと、クラスの代表者が舞台上上がり、和楽器の演奏や歩き方を教わる姿を見たことで、能のおもしろさを感じることができた。

3日目の京都班別研修では、班ごとにガイドマップを参考に行き先を検討し、事前学習を通して調べた世界遺産や国宝に指定されている寺社仏閣を見学した。また、着物の着付け体験を行った班や、京スイーツを味わう班など、それぞれが充実した時間を過ごすことができた。また、班のメンバーと協力し合う姿も見受けられ、行事を通して得られることの大きさを再認識した。

4日目の大阪では、ユニバーサルスタジオジャパンにて友だち同士で園内を周り、様々なアトラクションに乗り、体験するなどして、修学旅行最終日を思う存分に楽しむことができた。

今年度の修学旅行もコロナ禍での実施ではあったが、平和や歴史についての学びを深めることに繋がった4日間であった。行事から学んだことを今後の学校生活に活かし、さらなる成長、飛躍する生徒たちに期待したい。



▲陶器の絵付け体験



▲雨の中のUSJ

中1・中2

英語特別ワークショップ



▲外国人講師との授業風景

2022年12月15日(木)・16日(金)の2日間で英語特別ワークショップが開催された。参加者は中学1年・2年のIAコース全員と他コースの希望者、64名。このワークショップは、日頃の授業での英語活動に加え、より多く英語に触れる機会を創出し、生きた英語力を育成するために開催された。

学年の垣根を越え、5～6人のグループに1名ずつの外国人講師が指導兼コーチとして参加した。11人の外国人講師たちは、アメリカ・イギリス・カナダ・ガーナ・中国・フィリピンなど様々な国から来ていて、多様なバックグラウンドを持つ講師たちから学ぶことができた。最初こそ少し戸惑っている様子も見られたが、アクティビティやグループワークを通じてメンバー同士も講師の先生とも次第に距離が縮まり、楽しく参加する様子が見られた。



▲グループ対抗ゲームの様子

講師の出身国に関する学びの場面では、どこにその国があるのか、どのような気候か、何を主食としているのか、どのような服を着ているのか、などを学んだ。次に、様々なワ

ークを通して日本についても改めて考えた。学校でのルールなど身近な話題も含めて、普段はあまり考える機会のないことについて、しかも外国語で日本のことを考えることはとてもチャレンジングだったと思う。しかし、諦めずによく取り組んでいる生徒の姿が多く見られた。



▲1対1でチェックを受けている様子

海外と日本の文化の違いを学んだ生徒たちは、一人ひとりがその学びをスライド数枚にまとめ、外国人講師に内容や英語をチェックしてもらった。そしてそれを何度も練習し、最終日にはプレゼンテーションを行った。生徒によって観点の異なる、多種多様なプレゼンテーションを見ることができて、外国人講師たちからも高い評価をいただいた。

参加した生徒たちからは「先生がとても面白くて本当に楽しかった。英語を話す機会がたくさんあって、ぜひ来年も参加したい」



▲プレゼンテーションの様子

「難しいこともあったけれど、やりがいがあった」「お互いの文化を共有するという貴重な体験はすごく心に残りました。ソーラン節を踊ったことも印象に残っています」などの感想があった。

中1・中2

ビブリオバトル



▲クラスチャンプと実行委員

2月15日(水)に中学1年生、2年生合同のビブリオバトルを実施した。ビブリオバトルとは、「本を通して人を知る。人を通して本を知る」のキャッチコピーでおこなわれている本の紹介ゲームである。1人1冊お気に入りの本の魅力を紹介し、一番読みたいと思った本に投票して、一番多くの票が集まった本がチャンプ本となる。今回は、各クラスでおこなわれた予選でチャンプとなった生徒9名が、伊藤記念ホールでそれぞれお気に入りの本を紹介した。クラスチャンプ生徒と紹介した本は次の通りである。1の1杉浦莉々『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』、1の2森小春『六人の嘘つきな大学生』、1の3竹内怜『すずめの戸締まり』、1の4池畑杏『秘密』、1の5齋藤花凜『かがみの孤城』、2の1石井聖七『人を動かす』、2の2福永絢音『世界は「」で沈んでいく』、2の3伊東亜音『か「」く「」し「」ご「」と「」』、2の4田中李乃衣『変な家』。生徒の投票により、チャンプは石井聖七さん、準チャンプは杉浦莉々さんとなった。桜和祭以来学年の垣根を越えた行事であったが、各クラスの代表であるビブリオバトル実行委員会を中心に実施に向けた準備をおこなってきた。当日は、司会進行、誘導・補助、タイムキーパーなど、すべての役割を委員が担い、スムーズな進行をおこなうことができた。参加した生徒たちも皆満足そうな表情であった。今後もこうした学年の垣根を越えた行事を積極的におこなっていききたい。



▲準チャンプ杉浦莉々さん



▲チャンプ石井聖七さん

新生徒会



▲新生徒会役員

12月に生徒会役員オンライン選挙が実施され、新生徒会が決定した。新たに会長となった飯田大慥さんを中心に、積極的な活動が既に始まっている。この3年間はコロナ禍の影響が大きく、学校行事の多くは縮小や中止となり、本来の生徒会活動が出来ていなかった。しかし、来年度は以前のような活動が期待される。

「新生徒会では、全校生徒が楽しめる学校行事になるよう、今から計画を始めています。生徒一人ひとりの意見が少しでも反映され、多くの生徒が充実した学校生活を送れるように来年度の準備をしています。」と会長が意気込みを語ってくれた。そんな新生徒会に期待をしている。

会長	飯田 大慥 (2G)
副会長	金子 舞花 (2I)
副会長	伊藤 優来 (1D)
書記	山崎 優也 (2F)
書記	今井 百花 (1G)
会計	半谷明日香 (2J)
会計	井上 美咲 (1C)
会計監査	倉田 流聖 (2F)
会計監査	望月 美優 (1E)

書き初め展

会期：1月28日[土]～31日[火]



▲書き初め展

春の全国大会 出場部紹介

高校 女子ハンドボール部

佐藤 奏吉先生

令和4年度 全国高等学校ハンドボール選抜大会



岐阜県
メモリアルセンター
3.23[木]~29[水]

高校 男子ハンドボール部

池畑 大先生

令和4年度 全国高等学校ハンドボール選抜大会

三重県 サオリーナ 3.23[木]~26[日]



高校 新体操部

塩屋 恵美子先生

令和4年度 全国高等学校新体操選抜大会
静岡県 このはなアリーナ
個人戦 太田詩月 3.23[木] 団体戦 24[金]



高校 体操競技部

中島 恵美子先生

令和4年度 第39回全国高等学校
体操競技選抜大会



西田 采永[高1]

四日市市
総合体育館
3.25[土]~26[日]

高校 自転車競技同好会

大坪 正典先生

令和4年度 全国高等学校選抜
自転車競技大会

北九州市 メディアドーム及びオートポリス

3.10[金]
~13[月]



中高 吹奏楽部

牧野 宏哲先生

2023年 第25回日本ジュニア管打楽器コンクール本選考会

東京都 尚美パリオホール 3.20[月]~25[土]



ン口部門
梅津菜々心[高1]・菅野風雅[高2]
昌子 航[中3]・川端志弥[中3]



木管3重奏 梅津菜々心
大嶋奏宇音・細谷満里奈[高1]



サクソ4重奏 菅野有葵・古谷咲奈
小林未乃・宮方祐華[高3]

中学 ソフトテニス部男女

高原 良江先生

令和4年度 第34回都道府県対抗
全国中学生ソフトテニス大会

三重県 伊勢市宮庭球場
三重県営サンアリーナ
3.26[日]~28[火]



大竹 潤正[中1]
吉田 零[中1]

奨学会だより

今年度の活動を振り返って

本年度も昭和学院中学高等学校奨学会へのご支援ご協力ありがとうございました。1学期から夏休みにかけては活動が制限されましたが、2学期以降はコロナ禍以前の状態とはいかないまでも、各部の報告にある活動を行うことができました。新型コロナウイルスの感染症レベルが2類相当から5類へ移行することで、来年度は

年間を通じて制限なく活動ができるよう願っております。この春、お子様をご卒業された奨学会会員の皆様には、在学中のご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。来年度も奨学会会員の皆様におかれましては、昭和学院中学校、高等学校並びに奨学会発展のため、何卒ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年度最後のご挨拶とさせていただきます。

会長 根本 隆道

常任理事会

第3学期の常任理事会が2月4日(土)に開催されました。各部の部会報告の後、来年度の目標や提案などが出されました。本年度はコロナ禍で中止となっていた桜和祭の協力や文化講演会などが実施され、奨学会の活動も活発になる兆しとなる1年間でした。来年度はさらに充実したものにしていくことを確認し、閉会となりました。



常任理事会の様子



常任理事のみなさま

各部より

総務部 桜和祭ではミサガ作りのワークショップを開催する事が出来ました。総務部では、これからも学校との連携と奨学会の伝統を大切に活動して参りたいと思っております。

学習施設部 主な活動は校内の教育環境を整えることです。学習面に関することや校内の緑化・トイレの美化に努めています。今年度は11月と12月に学校敷地内の落ち葉清掃を実施しました。

文化教養部 文化講演会を3年ぶりに再開。ジャーナリストの田原総一郎氏、元駐米大使の藤崎一郎氏、環境活動家の露木志奈氏に來校いただきました。生徒から鋭い質問が相次ぎ、充実の内容になりました。

厚生補導部 本年度は朝の登校指導から文化講演会のお手伝いまで、多くの保護者の方々にご協力いただきました。来年度もよろしくお願ひします。

行事推進部 本年度もインターハイ予選から多くの保護者の方々が足を運んで下さいました。美化清掃などにもご協力頂きありがとうございました。来年度も宜しくお願い致します。

母姉部 今年度は、私学振興大会への参加と学校美化清掃活動への参加が主な活動となりました。コロナ禍で多くの制限がある中、活動にご協力頂きありがとうございました。

主な合格状況

[3月10日現在]

四年制大学

〈国公立大〉

筑波大	1	国土館大	4	千葉経済大	1
千葉大	4	芝浦工業大	1	千葉工業大	39
		東京電機大	8	千葉商科大	3
		武蔵野大	7	中央学院大	6

〈私立大学〉

早稲田大	5	神田外語大	19	帝京科学大	4
慶應義塾大	1	大妻女子大	4	帝京平成大	10
上智大	1	共立女子大	4	桐蔭横浜大	3
東京理科大	1	実践女子大	2	東京有明医療大	1
明治大	4	昭和女子大	5	東京医療保健大	5
青山学院大	1	跡見学園女子大	5	東京家政大	1
立教大	7	医療創生大	1	東京経済大	4
中央大	2	江戸川大	1	東京工科大	2
法政大	13	大阪芸術大	1	東京工芸大	6
学習院大	1	大阪体育大	1	東京国際大	2
同志社大	1	開智国際大	5	東京情報大	1
日本赤十字看護大	1	神奈川大	1	東京女子体育大	2
國學院大	5	神奈川工科大	2	東京造形大	1
明治学院大	3	川村学園女子大	1	東京成徳大	1
獨協大	9	関東学院大	4	東京未来大	2
成城大	2	近畿大	1	東都大	6
武蔵大	2	国立音楽大	1	東洋学園大	1
学習院女子大	2	恵泉女学園大	1	二松学舎大	3
津田塾大	2	国際医療福祉大	2	日本工業大	2
東京女子大	1	こども教育宝仙大	1	日本体育大	2
日本女子大	1	埼玉工業大	2	北翔大	1
東京農業大	4	産業能率大	2	文化学園大	1
東邦大	11	四国大	1	文京学院大	1
北里大	2	淑徳大	2	武蔵野音楽大	2
杏林大	2	城西国際大	4	武蔵野美術大	1
順天堂大	14	松蔭大	1	明海大	1
日本大	29	昭和薬科大	1	明星大	2
東洋大	12	聖徳大	4	目白大	3
駒澤大	7	西武文理大	1	立正大	5
専修大	16	洗足学園音楽大	3	流通経済大	1
大東文化大	1	仙台大	1	了徳寺大	1
東海大	5	創価大	2	麗澤大	9
亜細亜大	2	大正大	5	和洋女子大	8
帝京大	9	高千穂大	1		

海外大学

シドニー大	1	情報経営イノベーション専門職大	6
ニューカッスル大	1	東京国際工科専門職大	1
オックスナード大	1	ヤマザキ動物看護専門職短期大	1

専門職大学・専門職短大

短期大学

昭和学院短大	11	共立女子短大	1
--------	----	--------	---

大学校・専門学校

防衛大学校	4	帝京高等看護学院	1
東京女子医大看護専門学校	1	千葉県立農業大学校	1
日本医科大学看護専門学校	1	他	33

就職

三郷消防、千葉県警察、日本企画(株)、(株)KNGC
ネクスト体操クラブ、ディースタンド(株)

延合格数

四年制大学	440名	海外大学	3名
専門職大学・専門職短大	8名	短期大学	12名
大学校・専門学校	41名	就職(内定者)	5名

合格者の横顔

みなさんおめでとうございます。質問は次の①～⑤です。

- ①コース・氏名
- ②現在までの合格校
- ③努力したこと
- ④平均学習時間(平日・休日)
- ⑤後輩へのアドバイス



① I A コース 宮川まどか ②上智大学 文学部 フランス文学科、The University of Sydney General Bachelor of Education ③モチベーション維持のため、なぜ志望する大学に入りたいのかを常に考えるようにした。集中力が続かないタイプだったので、25分勉強して5分休憩を繰り返していた。

④平日4～5時間程度 休日8～9時間程度 ⑤In recent years, many universities have introduced various entrance examination methods. I think the shortcut to success in entrance examinations is to first thoroughly research what kind of entrance examination methods are available and then choose the one that suits you best. Good luck!

- ① A A コース 和田七虹 ②千葉大学 教育学部、武蔵野大学 教育学部 教育学科
- ③自分の目標に向かって信じ、諦めないこと
- ④平日3時間 休日9時間
- ⑤支えてくれる周りの人に感謝し最後まで諦めず、夢に向かって頑張ってください。



① G A コース 竹中 智哉 ②早稲田大学 教育学部 国語国文学科、専修大学 商学部 マーケティング学科、専修大学 人間科学部 社会学科 ③授業をただ受けるのではだめだと思い、高1から先取り学習を進めた。参考書や授業動画を活用し、学校の先生に勉強法のアドバイスを伺った。

④平日7時間 休日10時間 ⑤G A コースからでも早稲田大学合格は成し遂げられます。毎日欠かさず勉強をすることが鍵です。1日1歩だとしても、それは偉大な1歩であり栄冠への1歩であると自信を持って踏みしめましょう。

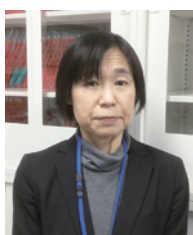
- ① G A コース 定本 美咲 ②法政大学 生命科学部 応用植物科学科、昭和女子大学 食健康科学部 食安全マネジメント学科、東京農業大学 応用生物科学部 農芸化学科 ③夏休みや自由登校の際も規則正しい生活を心がけ、8時半から勉強を始めた。同じ場所で勉強するのが苦手なため、学校や塾に行き勉強に集中できる環境作りを心がけた。



④平日6時間 休日9時間 ⑤全体的な勉強の計画を立ててから取り組み、1時間半おきにしっかり休憩をとって勉強すると、集中できると感じました。最後はメンタル面での勝負だと思うので気持ちを強く持って頑張ってください。

進路指導を振り返って

まずは卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは入学時からコロナ禍にあり、制約の多い3年間を戦い抜きました。オープンキャンパスもオンラインになり、困難の中で進路を決定し、



進路指導部部长
松田ひとみ教諭

全力を尽くしたと感じています。困難は必ず皆さんを成長させ、実りの多い人生にしてくれると期待しています。

高校1年生、2年生の皆さん、受験は早めに対策を打つことが大切です。卒業生の結果を見ると、学校推薦型や総合型などのいわゆる年内入試で四年制大学へ進学する割合が5割程度、一般選抜も含め、多くの卒業生の皆さんが四年制大学へ進学します。また、全国で47万人が受

験した共通テストに、本校からも多くの生徒が受験しました。

予備校の分析によると、2023年度入試の特徴は、「18歳人口減と私大を中心とした定員増により合格率が上昇」、「将来を見据えて実学系や情報系が人気」とあります。実は昨年度も同じ分析がされていますが、今年度の分析で印象的だったのは「コロナの影響で…」というフレーズをあまり聞かなかったことです。「コロナ禍の緊急態勢はなくなった」というメッセージなのでしょう。今の高校1、2年生も注意が必要です。

思い通りの結果を出せなかったケースもあり、その理由の一つに、エンジンをかけるのが遅すぎたことがあります。2年生の皆さん、今日家で何を学習すべきか分からないなら、焦ってください。今すぐ担任の先生に相談し、スタートダッシュを切ってください。